



ひさしぶりの青空。今朝は、みんなちょっとおどろいた顔で、しいの木の下をとっておく。

まいも、見あげると、大きな木のてっぺんちかくに、ゆうくんがすわっていた。

「おはよう、ゆうくん」

まいは、木の上にむかって手をふった。

みっちゃんもランドセルをゆらしてやってきて、

「うわあ。あんな上のほう、どうやってのぼるのかなあ」と、感心したようにいう。

ゆうくんは、まいやみっちゃんのほうはちらりとも見ないで、顔を空にむけてじっとしている。

ゆうくんとは、二年生になってはじめて同じクラスになった。ゆうくんは、色が白くて、女の子みたいな顔をしていて、絵がじょうずで、走るのがはやくて、木のぼりもうまくて、泣きむしで、まいのとりの席だ。

ゆうくんは二年三組にいることもあるし、すずかけ学級にすることもある。すずかけ学級は、先生と一対一でいるんなことをべんきょうするところらしい。

ゆうくん、またなんか、いやなことがあったんで木のぼっちゃったのかな。それとも、あんまりいいお天気で、空も木もきれいなんでのぼったのかな。まいは、ゆうくんの栗色の髪をながめながら思う。しいの木の若葉がちらちら、風にゆれている。